

2026年度 JSAF 方針

【はじめに】

2025年度は、セーリングをブランディングし、戦略的なマーケティング施策と広報施策を実施することにより、セーリングと連盟を応援する個人・企業・団体を拡大すること、連盟の会員や加盟する団体に対し、連盟に関わり続けることに満足できるサービスやメリットを提供するとともに、マーケティング施策の成果を会員に還元すること、新しい「勝ちに行く体制」を継続推進し、ロサンゼルス2028オリンピック競技大会でのメダル獲得を目指すとともに、ブリスベン2032オリンピック競技大会に向け次世代選手を計画的に育成すること、多様で幅広いセーリングを支援し、強化することを目標に掲げ諸事業を推進した。

協賛金獲得見込額の増加やオリンピック強化委員会をはじめとする事業費支出の削減等により、2024年度と比較して赤字幅が縮小を見込むものの、会員数の伸び悩み等による会費確保など種々の課題が残っている。このため、各委員会の収支差額の限度目標を設定し、各委員会が基本的にこの収支差額限度の範囲内で委員会ごとの予算案を策定する形で進めるという方針のもと、JSAFの中長期的な収支の均衡、財政面の安定化に向けた2025年度予算を策定するとともに、財政健全化活動に取り組んだ。

組織体制については、これまでの経営企画室の機能を新たに設置した経営企画委員会に引き継ぐとともに、業務執行理事の担当割や委員会グループ体制を構築し、諸事業にあたる体制を構築した。また、2014年に旧「普及委員会」と「指導者委員会」を統合して組成した「普及指導委員会」について、普及活動領域が広がり多様化した現状を踏まえて発展的に改組し、普及・育成・指導の3委員会体制へ移行することとし、2026年度から新体制で諸事業に臨むための検討を継続して行った。また、愛知・名古屋アジア競技大会（愛知・名古屋2026大会）セーリング競技開催へ向けて、JSAF経営企画委員会「アジア大会統括チーム」の体制強化を図った。

また、JSAFのミッション、ビジョンに基づいて、JSAFとして大切にしている価値観を再定義するとともに、組織の存在意義や社会的価値を積極的に体外的に示し、協賛企業や支援者、さらには会員やサポーター・ボランティアなどからの支持・共感の増大などにつなげていくために、パーパス「セーリングの力で、楽しむ心、挑戦する勇氣、成長する機会を広げ、海や自然、人々が共生する社会を築きます。」を制定した。

2026年度は、以下の中期基本方針に基づいた諸活動を更に加速させるとともに、新規パートナーの更なる獲得、会員の増加を目指した取り組みを継続して、財政健全化実現へ向けた諸課題に継続して取り組む。

【中期基本方針】

連盟は、「セーリングスポーツの価値」を活力の源泉とし、JSAF VISION「セーリングをもっと楽しく Maximize fun of sailing」、JSAFのパーパス「セーリングの力で、楽しむ心、挑戦する勇氣、成長する機会を広げ、海や自然、人々が共生する社会を築きます。」の実現に向けセーリングスポーツの国内認知度を高める。セーリングスポーツのより一層の普及・振興・発展のために、会員と加盟する団体とともに連盟の力を結集して、DEIや環境保全を推進し、先進的な競技団体になることを目指す。また、セーリングスポーツの魅力発信、

社会共生、収入源増加にむけた新しいチャレンジを行う。

【2026年度の重点施策】

I. もっと身近になる (Easy Access)

セーリングをブランディングし、戦略的なマーケティング施策と広報施策を実施することにより、セーリングと連盟を応援する個人・企業・団体を拡大する。(詳細略)

- (a) 地域社会の人々に「Start Sailing」を呼びかけ、セーリングの開始や再開の場を提供する。
- (b) 海洋環境問題への取り組みを拡大し、この取り組みを社会に対して広く発信する。
- (c) ジェンダー平等と障がい者参加を含むインクルーシブな取組みを推進し、それらの成果を広く社会に発信する。
- (d) セーラーのライフステージに合わせた、普及・育成に関する JSAF 全体としての方針の再定義を行い確立する。

II. 関わり続ける (Open Community)

国内外の情報を収集し、連盟の会員や加盟する団体に対し、連盟に関わり続けることに満足できるサービスやメリットを提供するとともに、マーケティング施策の成果を会員に還元する。(詳細略)

- (e) 加盟する団体間や他の組織（ヨットクラブ、自治体や企業、個人、マリーナなど）と連携し、セーリングに関わるコミュニティを創設し、地域振興に貢献する。
- (f) 年齢や環境が変わっても誰もが自分に合ったセーリングを続けられるように、セーリングスタイルの多様性を守り、シーマンシップや生涯スポーツとしての価値を高める。
- (g) 全国のセーラーが満足できるレース品質を維持するためのオフィシャルズの人材育成を行う。
- (h) 効率化等の観点から業務を見直しつつ、次世代に引き継ぐための組織体制を整備・維持・強化する。
- (i) 継続的に規程の見直しを行うなど、透明性の高い運営や、健全な財政、組織強化を目指し、スポーツ・コンプライアンスを遵守できる組織体制を整える。
- (j) 全国のヒヤリハット体験や安全にかかわる情報共有や通信環境整備、人材育成により、事故の極小化を目指す。

III. もっと強くなる (High Performance)

新しい「勝ちに行く体制」を継続推進し、ロサンゼルス 2028 オリンピック競技大会でのメ

ダル獲得を目指す。更にブリスベン 2032 オリンピック競技大会に向け次世代選手を計画的に育成するとともに、多様で幅広いセーリングを支援し強化する。

(k)LA2028 大会での連続メダルの獲得(470 クラス)、1 種目以上の入賞を目指す。このため、LA2028 大会に向けた次世代強化/LA2028 大会での国粋獲得種目の維持・拡大を目指す。

(l)また、ブリスベン 2032 大会以降を見据えた持続的成長可能な組織体制の構築を行う。具体的には、JSAF 自己財源の拡充、強化拠点機能の強化、スタッフ人材育成、育成・強化教材のアップデート・横展開を推進する。

(n) 上記 (k)、(l)の方針を基に、人的・物的資源配置の最適化を加速させる。

(o)ブリスベン 2032 大会におけるパラリンピック競技の復活、及び 2025 年度に新たに始まったワールドセーリング・インクルーシブ世界選手権への継続参加に向け、障がい者セーリングを推進し、選手を強化する。

(p)愛知・名古屋アジア競技大会（愛知・名古屋 2026 大会）セーリング競技の開催（2026 年 9 月 26 日～10 月 3 日、海陽ヨットハーバー）に向けて、愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会（AINAGOC）と JSAF 経営企画委員会「アジア大会統括チーム」が連携して運営体制の確立を図るとともに、セーリング競技運営（機材調達、運営スタッフ要員の確保、等）について AINAGOC との間に業務委託契約を締結し、JSAF として必要な準備を行って大会の開催に万全を期する。

(q)セーラーのライフステージに合わせた強化に関する JSAF 全体としての方針の再定義を確立し、オリンピック種目に偏ることなく、キールボート、外洋など、総合的に強化支援する。

以上